

衣食住と SDG s との関係を学ぶ ～食編～

- 1 趣 旨 小、中学生を対象に体験を通して淡路島の豊かな自然について実感してもらうことにより、自身を取り巻く環境に興味を持ち、そして未来を創る青少年を育成する。
また、高校生や大学生にリーダーとして活動してもらうことにより、異年齢交流の機会とするとともに、高校生や大学生に対しても、地域への愛着を感じる機会とする。
本事業は、SDG s やESDといった持続可能な社会を担う青少年の育成も包含し、淡路島の「山・里・海の魅力と課題」に着目した探究型の事業を展開する。
今年度からは「衣食住とSDG s との関係」をテーマに掲げ、今年度は「食」を中心に活動する。地域の方や専門家の方と直接話しながら、職業体験や魚釣り等を通して、「食のありがたみや淡路島の多彩な農業・漁業の魅力や課題」を探究する。そして、より良い未来とは何かを考え、自分たちには何ができるのか考える。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家
- 3 後 援 兵庫県教育委員会、淡路市教育委員会、洲本市教育委員会、南あわじ市教育委員会、徳島県教育委員会
※当事業は公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業の助成を受けて実施
- 4 協 力 株式会社山本商店
- 5 期 日 令和7年8月20日（水）～24日（日）【4泊5日】
- 6 場 所 国立淡路青少年交流の家、その他（淡路島内）
- 7 対 象 小学5～6年生、中学1～3年生 50名
- 8 参加人数 47名（内訳：小学生38名、中学生：9名）
※申込み多数のため、抽選を行った
※3名欠席

9 プログラム内容

8月20日(水)【1日目】

【開会式】11:00～11:30

はじめに、過去の事業の取り組みと今回の事業のテーマについて確認した。今年度から「SDGsと衣食住との関係」を新たなテーマにし、今回の事業では、「食について焦点をあて、よりよい未来に向けて、今の自分にできることは何か」を考えることを目標とした。



【食とSDGsについて】13:30～15:30

鳴門教育大学副学長の速水先生をお招きして、「食とSDGsについて」というテーマで講義を受けた。SDGsの基礎知識を学んだ後に、食とSDGsの関係性について学んだ。講義の最後には食に関して自分が貢献できることを考えたものを班ごとにまとめて、5日間で取り組むテーマを決めた。「自分にもできることを見つけないかと思った」、「食とSDGsは深く関係していて、一人ひとりの少しの意識で環境が変わっていくのが分かった」といった感想があり、講義を通じて知識と関心が深まっていく様子が見られた。



【テント泊について考えよう】15:45～16:30

交流の家の職員から「テント泊に必要なものは」というテーマでグループワークを行った。テント泊はどのような状況ですることがあるのか、周りの環境や必要なものは何かについて学んだ。また、事前学習で調べてきた懐中電灯の様々な使い方について発表し、夜のテント設営練習時に実践するものを決めた。

【テント設営練習】 18:30～20:00

3日目の離島でのテント泊に向けて、テント設営の練習を交流の家で行った。初めてテントを立てる参加者もいるなか、班の仲間と協力する姿を見ることができた。テント設営後には懐中電灯の様々な使い方を実践した。ペットボトルとビニル袋を使うと懐中電灯の明かりが大きくなり、参加者からは驚きの声が上がっていた。



【振り返り】

1日目の振り返りを行い、『感じたこと・気づいたこと・疑問に思ったこと』などの感想と、今日の活動を経て考えた『今の自分に何ができるのか』について発表した。参加者からは、「食とSDGsとの深い関係を知ることができた」「仲間と協力することで大きなテントでも立てることができた」などの感想が聞かれた。また、『今の自分に何ができるのか』では、「好き嫌いせずに食べる」「水を出しっぱなしにしない」「ゴミを分別して捨てる」といった声が多く聞かれた。

8月21日（木）【2日目】

【刺し網漁・タコ壺漁体験】 9:00～12:30

淡路市で「釣舟 内良」の内海さんに、刺し網漁・タコ壺漁の体験をさせていただいた。実際に漁師の皆さんと漁に出て、漁の方法を教えてもらいながら作業を手伝ったり、とれた魚を触ったり、様々な体験をすることができた。体験後には仕事のやりがいや、大変なこと、漁の種類や方法等様々な話をさせていただいた。内海さんが参加者に寄り添い丁寧に質問に答えていただいたおかげで、興味をもって何度も質問する参加者も見られた。普段の生活で何気なく見かけ、食べている魚が自分に届くまでの過程や苦勞を知る貴重な機会となった。



【ビーチコーミング・海水浴】 14:30～16:30

南あわじ市の阿万海岸で、ビーチコーミングを行った。海水浴前には海の事故や気を付ける生物について学習した。活動後には「きれいな海を保つために自分でも定期的にゴミ拾いをしたい」といった声もあり、アクティビティの場である海水浴場の砂浜でゴミがあることを体感し、自分にできることを考えることができた。



【漁でとった魚を食べよう】 20:00～20:30

午前中の漁体験でいただいた魚を食堂の方に調理していただき、様々な調理方法でいろんな種類の魚を食べた。漁師の方や食堂の方は普段の仕事の時間を削って自分たちの活動の為に協力していただいたこと、食べるまでにはたくさんの人が関わって、いろんな思いがあることに気づくことができ、大きな声で気持ちのこもった「いただきます」「ごちそうさまでした」を聞くことができ、食のありがたみを、身をもって知る貴重な体験になった。



【ウミホタル観察】 20:30～21:45

交流の家の近くの阿万海岸でウミホタルの観察を行った。はじめにビデオでの事前学習と乾燥ウミホタルの鑑賞を行いウミホタルの生態について学んだ後、実際に阿万海岸に採集に行った。たくさんのウミホタルを観察することができ、参加者からは感動の声をたくさん聞くことができた。



【振り返り】

2日目の振り返りを行い、一人ひとりが『感じたこと・気づいたこと・疑問に思ったこと』などの感想と、今日の活動を経て考えた『今の自分に何ができるのか』を発表した。参加者からは、「漁師の苦労や思いを知ることができた」「食べられることを当たり前と思わず感謝したい」「海を汚さず綺麗にしたい」といった感想が聞かれた。『今の自分に何ができるのか』では、「好き嫌いせずしっかり食べる」「ゴミをポイ捨てしない、気づいたら拾う」といった声が多く聞かれた。また、翌日テント泊をする沼島について事前学習をし、沼島の歴史や観光地について学び、翌日の楽しみを膨らませた。

8月22（金）【3日目】

【玉ねぎの農業体験】 9:30～11:00

南あわじ市の山本商店にて玉ねぎの農業体験をした。玉ねぎの生産量や栽培方法を聞いた後、加工玉ねぎの作業体験、保管する冷蔵庫の体験、農作業の機械の乗車体験をして、農業のやりがいや、販売されるまでの作業の大変さに気づくことができた。「淡路島の玉ねぎの生産量に驚いた」「感謝して野菜を食べるようにしたい」といった感想を聞くことができた。



【テント設営・沼島散策】 14:00～16:30

汽船に乗って、離島（沼島）へ行きテント設営を行った。初日に練習していたおかげで各班スムーズにテントを立てることができた。中には苦勞している班もあったが、自ら動いて助けている参加者を見ることができた。テント設営後は沼島散策をした。「沼島海水浴場」でフォトフレーム作りに使う貝殻や小石を拾い、その後「おのころ神社」を参拝して国生み神話の舞台と言われている沼島の歴史ある街並みを楽しんだ。



【離島でテント泊・星空観察・振り返り】 19:00～21:30

沼島でテント泊を行った。自然豊かな環境の中で、綺麗な星空や、豊かな自然を守るために自分たちに何ができるかを改めて考えることができた。

3日目の振り返りを行い、一人ひとりが『感じたこと・気づいたこと・疑問に思ったこと』などの感想と、今日の活動を経て考えた『今の自分に何ができるのか』を発表した。参加者からは、「玉ねぎの栽培面積や1日の出荷量に驚いた」「テント設営や簡易トイレを使って、普段の生活がどれほど恵まれているか分かった」といった感想が聞かれた。『今の自分に何ができるのか』では、「いただきます。ごちそうさま。を気持ちを込めて言う」「残さずにご飯を食べる」といった声が多く聞かれた。



8月23日（土）【4日目】

【テント撤収・沼島で釣り】 7:30～10:30

テントを撤収した後、沼島の漁港で釣りを行った。食べられる魚や毒がある魚、リリースしたほうが良い大きさ等を事前に学習し、釣りを行った。魚はたくさん釣れたが、小さくてリリースすることが多かった。食べるということは、命をいただくことだと改めて気づく参加者が多数見られた。また、むやみやたらに捕獲せず、リリースすることの意味を理解することができた。



【釣った魚を捌く・野外炊飯】 16:30～19:30

交流の家の炊飯場で野外炊飯メニューの鉄板焼きを行った。漁業体験でいただいた魚、農業体験でいただいた玉ねぎ、沼島で釣った魚も一緒に調理した。仲間と協力し調理する様子が見られ、コミュニケーションを取りながら進めることができていた。食材の背景を知り、調理することで、普段よりおいしく感じると言っていた参加者が多かった。



【キャンプファイヤー】 19:45～20:30

交流の家の職員の指導で、キャンプファイヤーを行った。初日はお互いに様子見て大人しかった参加者だったが、共同生活で活動を重ねて仲が深まった様子を見ることができた。最後は全員で声を合わせてまとまることができ、参加者の成長を感じる時間になった。



【振り返り】

4日目の振り返りを行い、一人ひとりが『感じたこと・気づいたこと・疑問に思ったこと』などの感想と、今日の活動を経て考えた『今の自分に何ができるのか』を発表した。「自分でとった食材や生産者を知っている食材は美味しく感じた」「自分たちが普段食べている食事にもたくさんの人の思いが詰まっているから感謝したい」といった感想が聞かれた。『今の自分に何ができるのか』では、「いろんな食材に関心を持つ」「食のありがたみについて考える」といった声が多く聞かれた。

8月24日（日）【5日目】

【フォトフレーム作り】

沼島海水浴場で拾った貝殻と小石を使ってフォトフレームを作った。参加者それぞれが拾ったもので作るので、様々なフォトフレームが完成した。海に落ちているもので作ったとは思えないクオリティで、参加者は満足している様子だった。



【5日間のまとめ・チャレンジ宣言】

5日間を通しての振り返りと、より良い未来に向けて、今後自分が継続して取り組む「チャレンジ宣言」を行った。まずは初日に班で決めた5日間の目標に対して自分ができたこと、気づいたことをまとめて班の中で発表した。参加者は自分のメモを見返しながら、学んだことをたくさん書きだすことができた。

その後、チャレンジ宣言を考える場面では、5日間の内容をもとに多くの「自分が身近にできること」を考える姿が見られた。最後は班の中でチャレンジ宣言を発表した。「残さず食べる」「バランスよくいろんな食材を食べる」「節水する」「ゴミをしっかりと分別する」等の意見が多く、各家庭や学校での実生活で取り組もうとしている様子であった。

10 成果と課題

初日と最終日を比べると、参加者に変容が見られた。日々の振り返りでは、「自分の普段食べている食事にはたくさんの人の苦労や思いが詰まっているので、感謝をして食べたい」「他人事ではなく自分で身近にできることを考えたい」と言っている参加者が多く見られるようになった。事前・事後アンケートを比べると、「地元の食材を使いたいと思う」「今の自分は、様々な人が関わって生きていると感じる」という項目において意識が向上している参加者が多かった。理由としては、生産者の方から直接お話を聞いたり、自分で食材を採集して食べたりしたことだと考える。どの活動場面でも、参加者は真剣に話を聞き積極的に質問をする姿が見られた。

今後の課題については、活動班のメンバーの調整と、学ぶ内容の選択肢を増やすことだと考える。今回は同じ班内で振り返りを行っていたが、活動を進めていくにつれて興味を持つことが分かれていき、同じ興味を持った参加者同士で意見交換する機会が少なかった。同じ興味を持った参加者同士で活動や意見交換を行うことで、より良いアイデアが出て、深い学びに繋がると考える。また、興味や体力的な問題で活動に支障をきたす場面があったので、活動内容やテント泊の可否を選択できる日を作るとより活動がスムーズになり、お互いに学んだことを伝える機会や、違いを知る機会になると考える。

今回は人数を拡大したが、大人数でやることにより様々な意見があり、興味を持つ内容がいくつかのグループに分かれることを知ることができた。次回は途中でグループの変更や、自分の関心がある体験活動を選択できるように準備し、より濃い時間を参加者に過ごしてもらえようにしたい。また、共同生活をする中でコミュニケーション能力、計画を立てる力、主体的な行動力を身につけてもらうために、参加者同士がより多くのコミュニケーションを取れるような活動も取り入れていきたい。来年度は「衣」もしくは「住」をテーマにする予定だが、参加者が身近に感じられる内容を意識しながら、「今の自分にできることは何か」を考え、実践していこうという意欲を持たせられるかを考え、実施したい。